

アメリカ同時テロに対して

わたしたちは こう考える・行動する

逐次刊行

14 3.22

「ばってんうーまん」たちは
松井やより さんの

VAWW-NET 日本の

よびかけに 賛同しました

私たちは9月11日アメリカ合衆国で起こったおそろしいテロリストの行動に 大きなショックを受け、被害者の方々やそのご家族の方々に深い悲しみの気持ちを持っています。でもブッシュ大統領の軍事力行使の決定には反対です。今回のテロはとても凶悪なものです。戦争ではなくて国際犯罪です。国連を中心とした国際機関の手で逮捕し 国際法廷で処罰すべきものとかがえます。武力行使でテロは防げません。憎しみがかえって大きくなりまたテロが繰り返されるだけです。もうテロリスト達は逃げだしているだろう。アフガニスタンに米軍が侵入すれば 傷つくのは女や子供たちや老人、貧しい力弱い人々の命や生活です。私たちは何とかしてこの気持ちを表現したいと思っていた時「戦争と女性への暴力」日本ネットワーク (VAWW-NET日本) からのファックスを受信しました。

「世界の女性たちに呼びかけます」緊急アピール

米国の報復戦争に断固反対し、平和的解決を要求します

ーグローバルな戦争にグローバルな連帯で抵抗しましょうー

- 1) 米国政府は国際テロへの報復戦争を中止せよ
- 2) 日本政府は米国の戦争政策に協力するな
- 3) 国連は国際刑事法廷を設置してテロ犯罪者を訴追せよ
- 4) アラブ系の人々への人種差別的暴力をやめよ
- 5) テロの根本原因を絶つために公正・共生の世界を

※

この呼びかけがあったことをとても嬉しく思い、早速連帯の声明を送りました。

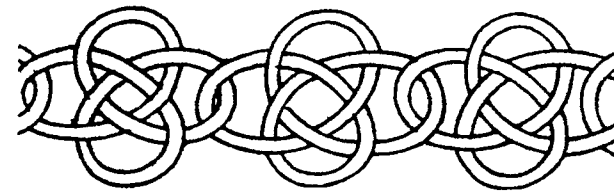
FAX

E-mail

街頭インタビューで『武力行使反対』と 表明している女がたくさん

テレビのニュースショウがニューヨークの広場での 人々のテロ事件に対する討論を放映していました。中年の女性が「報復は報復を生み出すだけだ、テロを根絶するにはその源になる憎しみを生み出す貧富の差を無くす必要がある。武力では本当の解決にはならない」と言っているのに、若い男性が「報復だ、やられたらやりかえせ」と意味もなくさげ、中年の女性は「よく考えて行動せねば」と理路整然とその男性にせまって説得し、男性はずるずる後退しながら「報復だ」と繰り返していました。

日本の街頭でも、マイクをつきつけられた女性は例外なく「武力行使に反対です」といい、男性は「酷いことをされた以上 報復すべき。日本も自衛隊をだして。そうしないと世界の物笑いとなる」とか「はやく自衛隊をださないとアメリカにうとまれる」とか言っている人が何人もいました。外国からどう思われるか、が第一にひらめくような自主性のない考え方、力にたいする意味のない信仰をどうして持つのかな？ 不思議です。



平塚もまた高群も戦争の協力者なれば 戦後は重し (朝日 歌壇)

葛西よう子

今週末私はある公民館講座の女性史で「平塚雷鳥」について語る機会をもった。来週は「与謝野晶子」で来月は「市川房枝」である。いずれも日本の女性の人権獲得の歴史の上で大きな働きをした女性である。「原始女性は太陽であった。真正の人であった」と高らかな女性解放の第一声をあげた雷鳥が 戦時中靖国神社でくばった白扇に書いた歌「国とともに永久に生きますたらちねの 神なる父に守らるる子よ」 また「天皇陛下の万歳を唱えて死ぬるときも笑って死ねる日本人は おもえば何という幸せな国民なのでしょう」とも雷鳥は書いた。かって日露戦争の時「君死にたまふことなかれ」と反戦詩を発表した与謝野晶子は「やすくのの神の御子にかなひつつ 光あらしめ大和魂」と歌っている。

婦人参政権獲得一筋の運動家だった市川房枝は 国民精神総動員運動中央連盟の委員になってしまう。ものを深く考え 粘り強く運動をしてきたすぐれた精神力をもった女性たちが ある意味ではその誠実な心の故にずるずると戦争に協力していったことを 私たちは忘れてはいけないと思う。国をあげて何かをしようとする時のこわさをここで思いだしたい。今 報復という勇ましい言葉が世界を駆け回っている時 私たちに最も必要なのは一人一人が自立した思考と行動力を持つことなのだ。

この勇気を 私たちも！



420対1 米議会でただ1人
軍事行動に反対したバーバラさん

9月16日の「朝日新聞」より

420対1

女性議員、「武力行使」に反対票

【ワシントン15日】立野純二米下院は14日、国際テロ対策でブッシュ大統領に武力行使を認める決議を採択したが、全会一致はならなかった。民主党の女性議員1人が反対票を投じ、票数は420対1。大統領が求めた上下両院の満場一致は実現しなかった。反対したのはカリフォル

ニア州選出のバーバラ・リー議員(55)。「だれかが抑制をせねばならない。事態が制御できなくなるのを防ぐために、決議の意味をじっくり考えるべきだ」と、武力行使が世界的に暴力の悪循環を生みかねない

米下院「だれかが抑制を…」

との懸念を示した。しかし米世論は、テロ組織への軍事攻撃を圧倒的に支持している。CNNなどの調査では、62%が米国は「宣戦布告」すべきだと考えている。下院でも、対日戦争以来となる議会の「宣

戦布告」をすべきだと主張する議員がいたが、決議は91年の湾岸戦争時にほぼな

1人の反対に
安どを覚えた

無職 小林 史子
(千葉県船橋市 30歳)

アメリカの同時多発テロは、事件そのものを伝える速報から、救助活動の様子、犯人の追及、軍事報復への動きとニュースの内容も移り変わっている。

大統領は「戦争」という言葉を使い、その支持率は8割を上回っている。そんな中、下院で武力行使に反対票をたった1人投じた議員がいることを知った。

アメリカは今、突然の予想もしない出来事に驚き、悲しみ、怒りに包まれていることだろう。しかし、その雰囲気の中にあつて、冷静に自らの真摯な信念に基づき投じたバーバラ・リー議員の1票には、不謹慎かもしれないが、ホッとする安

どのようなものを覚えた。そして、さらには単なる恐怖でしかなかった戦争が、尊ぶべき平和の対極にあるものだ改めて認識出来たように思う。

しかし、そこにはいつも多数に動じることのない、毅然とした態度で発せられた少数の声が必ずあるはずだろう。アメリカ議会は武力行使を認める決議を満場一致では採択しなかった。

(朝日 9月25日投票)

何の迷いもなく一つの著しく偏った価値観によってもたらされた悲劇、これを許せないと、何の疑いも持たずに一つの選択肢で解決をみようとする政治や世論。私は、こういったことが恐怖に思えてならない。事実、歴史はその繰り返した。

まだまだ止めない 「ミス〇〇」キャンペーン

「ミス原爆美人コンテスト」さえつくった 男たちの遺伝子か

長崎県五島列島の福江市において去る10月1日、「ミス観光」が発表された。ぼってん・うーまんの会はミス反対の意見をわかってもらうために「募集要項」を取り寄せ、主催者側の観光協会に次の4点について質問した。

- ①、応募資格を18才以上25才以下の未婚女性、と限定したことについて
- ②、選考者のメンバーについて
- ③、給与条件
- ④、水着審査の有無について

- 1、については、1週間位の島外イベントがあるため家庭持ちの方は無理と判断したということだが、要項の仕事内容をみて条件がクリアできれば既婚者でもいいはずだ。また、仕事内容をよむと25才までしかできないというものでもない。もっとハードな条件の仕事を我々女性はこなしている。25才までの独身しかできないなんて条件が笑わせます。
- 2、についてはノーコメント。「ひ・み・つ」です、「プライバシーにかかわるから」、だそうで、こちらがエッと絶句した。誰かがキズつくような募集なら初めからしなくてもいいのではないか。
- 3、については賞金10万円と福岡往復航空券、あとはイベント時に宿泊、交通費、日当だそうで、これはボランティア並みだと考える。新聞記事によれば当選者3人はみな仕事もちである。仕事を年に10回から15回休ませて、そして1年間の拘束。女だからできるのだよなという声が聞こえてきそうである。ちなみに、4ヶ月間「国境なき医師団」でボランティアをした知人女性医師は職場復帰がだめになった。女性と仕事についてはいろんな解釈のしかたで処理し、女性の仕事もまた人権であることのとらえかたが当事者側にとって非常にうすいのは問題である。
- 4、については水着審査はしていないとのこと。当たり前であって、今まで必要のないところに水着審査が横行していた。何のため、いや誰のためだったのか考える必要がある。

— と、理路整然、感情を抑えて書いてきたがだんだんいらいらしてきたのがわかる。つまりキレかかってきた。以下、本音を申し上げる。

イベントなどに女性を職場から摘んできてちょちょっと使ってほしくない。女性は真剣に働いているのだ。女性は軽い仕事をしているから、仕事に影響はないだろうと見ている。その先入観が女性の低賃金や就職難につながっており、女性は大変迷惑している。

1998年、190号の当誌によると九州観光都市がミス事業をする理由として、観光事業の高揚、物産振興の発展に寄与する、とある。では未婚の若い女性でなければいけないのか、未婚の若い女性を必要とする対象は誰たちなのかを問いたい。

ジョン・ダワー著作の「敗北を抱きしめて」によると、原爆が投下された長崎にあってさえ駐留するアメリカ占領軍人とともに「ミス原爆美人コンテスト」を開催した、とある。つまり、ミスコンテストは誰か、何かを対象にしたゴキゲン取りに過ぎないのである。観光立県を志したら、小手先に女を使うマンネリをやめ、企画運営にもっと女性を入れ、知恵をかりて取り組むべきである。1ヵ月英会話もできずニュージーランドを一人旅して、行く先々の経験豊かな中高年齢の女性所員に助けられた経験からもそう断言したい。